

## 5年1組 学級活動指導案

日 時：令和6年11月1日（金）13：30～14：30

場 所：体育館

対 象：第5学年 29名（男子18名、女子11名）

指導者：教諭 及川 めぐみ

## 1 題材名「がんを正しく知ろう」

内容（2）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

## 2 題材について

## （1）児童の実態

本学級は、男子18名女子11名（内2名特別支援学級在籍）の計29名である。全体的に活発で、何事にも積極的に取り組もうとする児童が多い。また、お互いを素直に認めあったり、褒め合ったりできる児童が多い。学習に対しても前向きであり、自分の考えを持ち周囲と相談し、学習を深めようと取り組む児童が多い。一方で、自分の考えが持てずに、学習に消極的になってしまう児童や、授業に集中できない児童もいるが、周囲の助言を受けながら学習に取り組む姿が見られる。

運動習慣に関しては、休み時間に外に出て過ごす児童と、室内で過ごす児童とが二極化している。スポーツの習い事をしている児童が多く、自主練習をするなど運動に対する意欲が高い児童が多い一方で、ほぼ運動をしない児童もおり、運動不足が懸念される児童も何人かいる。生活習慣については、高学年になり、インターネットやゲーム等に多くの時間を使い、習い事が遅くまであり、就寝時間が遅くなっている児童も見られる。食生活については、ほとんどの児童がバランスの取れた食事をとっている。中には野菜や、肉、魚など苦手なものが多い児童もいるが、給食では一口は食べようと努力する姿が見られる。

事前アンケートから、「がんの学習は健康な生活を送るために重要である」「役に立つ」の項目を、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えた児童は9割近くいることから、児童はがんの学習の有用性を感じていることがわかる。また健康的な生活をするのががんの予防につながることや、検診を受けた方がよいということを知っている児童は9割以上と多い。しかし、自分のがんにならないと思う児童が「そう思う・どちらかといえばそう思う」が約3割いることから、自分事としてはとらえられてない児童がいることがうかがえる。また、「がんの治療方法は医師が決める」と思っている、「がんになったら生活の質を高めることができない」と受け身に捉えている児童が約3割いる。がんの基礎知識の質問においては、2割～3割の児童が誤っているものが多いことから、正しい知識を持たないまま、がんを怖い病気、治らない病気であると認識したり、がんになってしまったら自分では何もできないと感じたりしている児童もいることがわかる。

これらを踏まえ、学級活動の中で外部講師から話を聞き、がんに対する正しい知識について知ること、体や健康についての理解を深められるようにしていきたい。

## (2) 題材設定の理由

がんは、日本人の死因の第1位で、生涯で2人に1人が罹患するといわれており、家族や身近な人がかかる可能性の高い病気となっている。またその罹患数と死亡数は人口の高齢化を主な原因として、ともに増加し続けている。しかし、人口の高齢化の影響を除いた年齢調整率でみると、がんの罹患は2010年前後まで増加し、その後は横ばい、死亡は1990年代半ばをピークに減少している。これは、がん検診などによる早期発見やがんの原因、予防について知られるようになったことも大きく関係していると考えられる。

がん対策推進基本計画においては、子供たちががんに対する正しい知識や健康に対する関心を持つことが求められている。そのためには、がんとはどんな病気であるのか、また、がんの予防や早期発見などについて学び、がんは怖いだけでなく、予防し、治療できる病気であることを正しく知り、理解する必要がある。さらに自己の生活課題に気づき、行動の仕方を考えさせたい。

## (3) 教師の指導観

### ①本校の特色について

本校では、自他の「いのち」を大切にすゝる行動をとることができる児童を目指した「いのちの教育」に取り組んでいる。各学年での道徳や学級活動、保健学習を通していのちの大切さについて学ぶことや、低学年から性教育も学べるよう、全体計画を組んでいる。またその他の柱としては、金管バンド活動などの音楽教育や溶岩の立地を生かした環境教育、ミニ美術館を生かした美術活動、読書活動などの情操教育も積極的に行われている。がん教育も柱の一つとして力を入れていくことで、児童が自分の命を大切に思い、健康に過ごそうとする気持ちを育てたい。

### ②教科横断的な学習とICTの活用について

今回、理科で「人の誕生」、学級活動で「がん教育」、道徳で「生命尊重の学習」と様々な視点から「命」について考えていく。命が生まれること、健康に生きるためにはどうすればよいか、長く生きられなかった人から感じる命の重さなど、児童が様々な命に触れることで、より命の大切さを感じられるようにしていきたい。また一人一台端末等を利用し、自分の考えを伝え、友達の意見から考えを広げることで、主体的に考え、心身ともに健康で望ましい生活を送ろうとする態度の育成につなげたい。

### ③外部講師との連携について

事前指導で助産師の話聞き、生命の誕生について実際の出産場面の動画などを見ながら学んだ。その後、産婦人科の医師の話聞くことで、若い女性が罹患する割合の高い子宮頸がんを入口として、がんに対する正しい知識を学んでいく。外部講師と連携することにより、より専門性の高い話を聞いて学ぶことで、生涯における自身の生活や健康への関心を高めたい。

### 3 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
がんに関する知識や健康に向けた生活を送るための行動の仕方について、理解している。	自分の生活課題に気付き、自分に合った行動の仕方を考えている。	心身の健康に向けた生活のために、自分の生き方についての考えを深めようとしている。

### 4 事前の指導

活動場面	活 動 内 容	
事前アンケート	事前アンケートの実施	
理科	人のたんじょう【5時間】	
	時	学習のねらい・個人の活動
	1	○妊婦や生まれたばかりの人の子どもの様子の資料写真を見て、人の子どもの母体内での成長について問題を見いだす。 ○人の子どもの母体内での成長について予想する。
	2～3	○人の子どもの母体内での成長について、調べる計画を立て、資料などで調べる。
	4	○人の子どもの母体内での成長について学んだことをまとめる。
特別活動 助産師 授業	人の子どもの母体内での成長や出産について外部講師の話を聞き、「人のたんじょう」について学習を深める。また自分の命がどのように生まれてきたかを知り、命の大切さを考える。【外部講師：富士吉田市立病院助産師岡山由佳さん】	
特別活動 がんの 基礎学習	がんの発生要因や予防法などがまとめられた動画を視聴する。 (文部科学省「がん教育推進のための教材」小学校版 映像教材：「がん博士の『がんについての基礎知識』」)	

### 5 本時のねらい

がんに対する基本的な知識を学び、心身の健康に向けた生活について知ることで、自分の生活課題に気づき、自分に合った行動を考えることができる。

### 6 本時の展開

活動	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準〈評価方法〉)
導入 10分	1. 事前に学習した人の誕生について、学んだこと、感じたことを発表する。 ・人の誕生には精子と卵子が結びついた受精卵が必要である。 ・自分が生まれてくる確率は奇跡に近い。	○理科や助産師のいのちの授業で学習したことを自由に発表させる。

	<p>2. 妊娠・出産したくても出来ない場合や、危険がある場合もある。それはどんな時かを考え、本時のねらいを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精子や卵子に異常があるとき</li> <li>・赤ちゃんが早く生まれてきそうになったとき</li> <li>・母体に異常があったとき</li> <li>・病気に気づかず妊娠してしまったとき</li> <li>・病気などで子宮をとってしまっているとき</li> </ul> <p>○妊娠・出産に危険を及ぼす原因の一つとして、母体の異常がある。その中でも妊娠したときに検査することによって発見されることも多い病気、子宮頸がんについて学ぶことを知る。</p>	<p>○生命の誕生に必要であるものから考えさせていく。</p>
<p>展開 ① 30分</p> <p>展開 ② 15分</p>	<p>3. 外部講師の話を聞く。</p> <p>外部講師 山梨大学大学院総合研究部医学域臨床医学系産婦人科学教室 宮下 大 先生 中込 彰子 先生</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○がんがどうして起こるのか</p> <p>○子宮頸がんについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生要因やがんになるまでの過程について</li> <li>・治療法について</li> <li>・予防法について</li> </ul> <p>○子宮頸がん以外のがんについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生要因について</li> <li>・予防法について</li> </ul> </div> <p>4. がんにならないために、自分ができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の話をもとに、自分にできることを一人一台端末（ふきだしくん：ティーファブワークス）を使って記入する。</li> <li>・出てきた意見を分類し、どんなことができるか考えを深める。</li> <li>・出てきた意見をもとに、がん検診や緩和ケアについて、さらに外部講師の話を聞く。</li> </ul>	<p>○必要に応じてメモを取りながら話を聞かせる。</p> <p>◆がんに関する知識や健康に向けた生活を送るための行動の仕方について、理解することができる。 【知識・技能】〈メモ用紙・観察〉</p> <p>◆自分の生活課題に気付き、自分に合った行動の仕方を考えることができる。【思考・判断・表現】〈ふきだしくん〉</p> <p>◆心身の健康に向けた生活のために、自分の生き方についての考えを深めようとしている。【主体的な態度】〈発言・ふきだしくん〉</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>5. 本時の学習を振り返る。</p>	

## 6 事後の指導

事後アンケート	事後アンケートの実施
道徳	主題名：「限りある命」【内容項目D 生命の尊さ】 教材名：「電池が切れるまで」 ねらい：精一杯生きることについて考えることを通して、限りある命を懸命に生きることの尊さに気づき、生命を尊重しようとする心情を育てる。
特別活動 (3学期)	「親子で知ろう！がんのワクチン」 授業参観で外部講師の話聞き、子宮頸がんワクチンについて、親子で知る機会とする。【外部講師：山梨大学医学部産婦人科 宮下大先生】

## 7 板書計画

めあて がんについて正しく知ろう

○人の誕生について

- ・精子と卵子が結びつき受精卵になる
- ・自分が生まれてくる確率は奇跡に近い

○妊娠・出産ができない場合

- ・精子や卵子に問題があった
- ・子宮に問題があった
- ・お母さんが病気になった
- ・お腹の赤ちゃんが病気になった

○がんにならないために、自分にできること

食生活

日常生活

予防

- ・好ききらいをしないでしっかり食べる
- ・お酒を飲み過ぎない
- ・規則正しい生活をする
- ・運動をする。
- ・検診を受ける
- ・ワクチン接種

## 8 児童の意見より

お酒を飲まない 👍6	ご飯を食べ過ぎないようにする 👍5	生活習慣に気をつける 👍6	定期的に検診を受ける 👍5	タバコを吸わない 👍2	ジュースの飲む量を少なくする 👍4	検診に行く 👍4
お酒を飲みすぎない 👍5	ジュースを少なくする 👍5	生活習慣をしっかりする 👍6	検診を受ける 👍6	タバコを吸わない 👍2	できるだけジュース飲まない 👍3	ワクチンを打つ 👍4
タバコを吸わない 👍5	体をしっかり動かす 👍5	早寝早起き朝ごはん 👍5	がん検診に行って早期発見できるようにする 👍5	大人になったときに、たばこをひかえる 👍5	じゅうすをあまり飲まない 👍6	早期発見 👍4
				大人になったときにおさげをひかえる 👍5	お菓子をあまり食べない 👍7	検診に通う 👍5

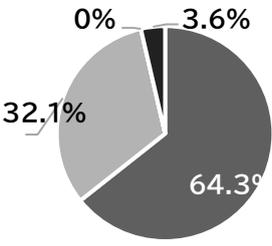
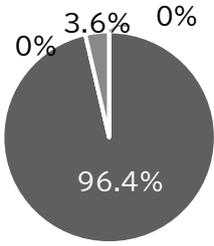
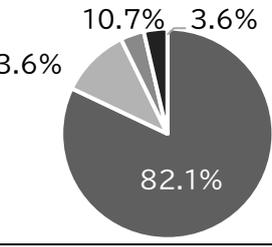
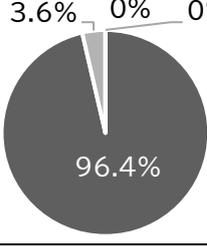
## Ⅱ 実践のまとめ

### 【児童に対する事前・事後アンケート結果について】

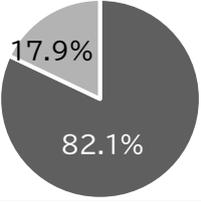
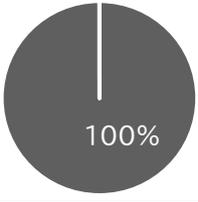
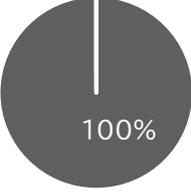
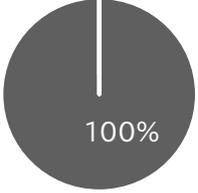
質問1 がんの学習の重要性について	実施前	実施後	増減
がんの学習は、健康な生活をおくるために重要だ（そう思う）	64.3%	96.4%	+32.1
がんの学習は、健康な生活をおくるために役に立つ（そう思う）	82.1%	96.4%	+14.3
質問2 がんという病気について	実施前	実施後	増減
がんは誰もがかかる可能性のある病気である（○）	82.1%	100%	+17.9
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある（○）	100%	100%	±0
がんは日本人の死因第2位である（×）	25.0%	67.9%	+42.9
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（○）	92.9%	100%	+7.1
早期発見すれば、がんは治りやすい（○）	78.6%	100%	+21.4
体の調子がいい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい。（×）	96.4%	96.4%	±0
がんの治療法には手術治療しかない（×）	67.9%	82.1%	+14.2
がんの痛みは我慢するしかない（×）	78.6%	96.4%	+17.8
質問3 がんへの考えと共生社会について	実施前	実施後	増減
自分はがんにならないと思う（そう思わない）	32.1%	42.9%	+10.8
将来、たばこは吸わないでいようと思う（そう思う）	85.7%	89.3%	+3.6
日ごろから、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくり組もうと思う（そう思う）	78.6%	78.6%	±0
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	53.6%	78.6%	+25.0
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（そう思わない）	10.7%	42.9%	+32.2
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	21.4%	21.4%	±0
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	89.3%	89.3%	±0
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	42.9%	75.0%	+32.1
家族や身近な人が健康であってほしいと思う（そう思う）	100%	100%	±0
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	85.7%	89.3%	+3.6

【アンケート結果グラフ】

**I. がんの学習について、あなたはどのように思いますか。**

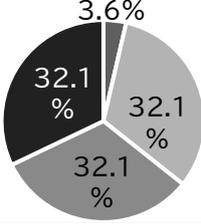
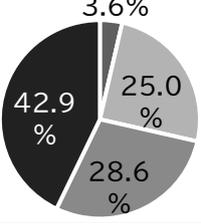
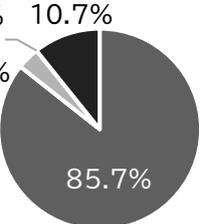
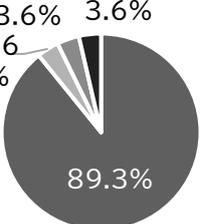
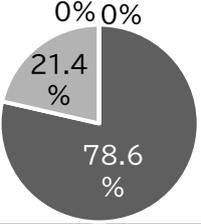
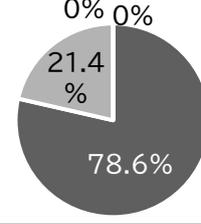
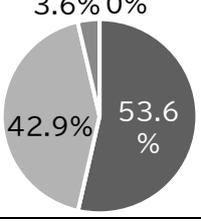
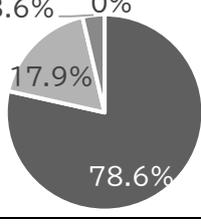
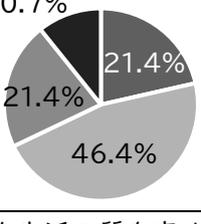
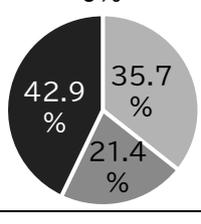
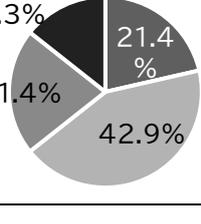
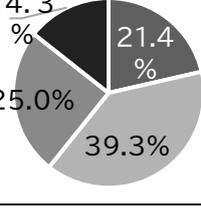
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う ▨ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない	
実施前	実施後
1. がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	
	
2. がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。	
	
<p>がんの学習について実施前から多くの児童が「重要である」、「役に立つ」と考えていたが、今回授業をしたことで、がんを予防するには正しい食生活や生活習慣、検診など健康な生活習慣が必要であることを自ら考えることができ、「健康な生活に重要である」、「役に立つ」と回答した児童が増えたと考えられる。</p>	

**II. がんのことについて○(正しい)か×(正しくない)で答えてください。**

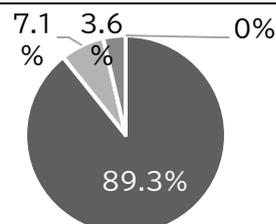
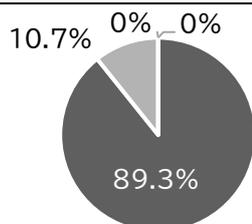
■ ○ □ ×	
授業前	授業後
1. がんは誰もがかかる可能性の病気である。(○)	
	
2. がんは進行すると今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。(○)	
	

3. がんは日本人の死因の第2位である。(×)	
4. たばこを吸わないこと、バランスよく食をすることなどによって、予防できるがんもある。(○)	
5. 早期発見すれば、がんは治りやすい。(○)	
6. 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくてもよい。(×)	
7. がんの治療法には、手術治療しかない。(×)	
8. がんの痛みはがまんするしかない。(×)	
<p>実施前はがんについての知識が乏しく、「勘で答えてもいいですか」という児童もいた。外部講師に、がんの知識を教えていただいたことで、多くの項目で正答率が高まっている。今回の授業を通して、がんについて正しい知識が身についたと考えられる。</p>	

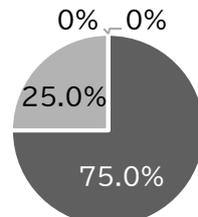
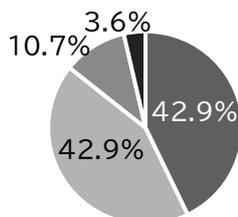
### III. がんについて、あなたが思うことを教えてください。

<span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #333; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span> そう思う <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #ccc; border: 1px solid black; margin-left: 20px; margin-right: 5px;"></span> どちらかといえばそう思う <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #999; border: 1px solid black; margin-left: 20px; margin-right: 5px;"></span> どちらかといえばそう思わない <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #000; border: 1px solid black; margin-left: 20px;"></span> そう思わない	
授業前	授業後
1. 自分のがんにならないと思う。	
	
2. 将来、たばこを吸わないでいようと思う。	
	
3. 日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど、健康な体づくりに取り組もうと思う。	
	
4. がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	
	
5. がんの治療法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	
	
6. がんになっても生活の質を高めることができる。	
	

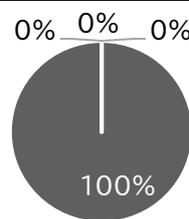
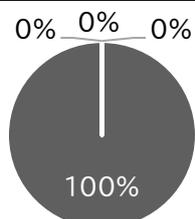
7. がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。



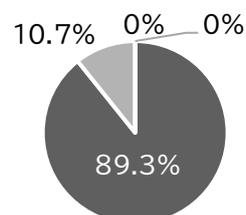
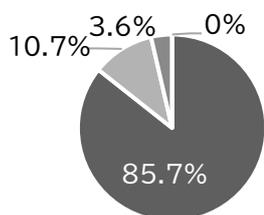
8. がんと健康について、まずは身近な家族と話そうと思う。



9. 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。



10. 長生きするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。



「自分はがんにならないと思う」「がん検診を受けようと思う」「がんの治療法はいくつかあるが医師が決めるものである」「がんについて身近な家族と話そうと思う」の4項目について回答に変化が見られた。

「自分はがんにならない」「がん検診を受けようと思う」については講師の話から誰もががんにかかる可能性があることや、早期発見によりがんは治る可能性がある病気であることを理解できたと考えられる。また、「がんの治療法は医師が決めるものである」は、医師は治療法を提示するが患者自身が決定できるという話に驚いていた児童が多く見られた。患者自身が決定できるということを初めて知り、回答が変化したと考えられる。ただし、「がんになっても生活の質を高めることができる」については、大きな変化が見られず、わずかに下がっている。「生活の質」という言葉や意味が、5年生には理解しきれない部分もあったかもしれない。「身近な家族と話そうと思う」の項目では、誰もがかかる可能性のある病気だからこそ、家族にも知ってほしいと考えた児童が多いのではないかと推測できる。

## 児童の授業後の感想より

### がんについて考えたことや学んだこと

がんは誰もがかかる可能性があり、日本で一番の死因。そして予防するためには、ワクチン接種や、検診を受けることが大切だということがわかった。

がんは早期発見をすれば大丈夫だけど、がんが進行した状態だったらがんを治すには子宮を取ったりするから、早期発見が大事。妊婦さんががんになってしまったら、お腹の赤ちゃんまで影響してしまうかもしれない。

これからがんにならないように、今からバランスの良い食事や適度な運動を行うなど、健康な体づくりに、取り組んでいきたい。

日頃から規則正しい生活や正しい食生活をすることでがんは予防できる。がんになったからしょうがないじゃなくて、自分でも今のうちから予防できると思った。

がんは、2人に1人がなる病気だから検診を受けられる年齢になったら定期的に受けて、健康な体作りをして、がんになってしまった人も過ごしやすい世の中になれるようにしたいと考えました。

### 授業を受けての感想

僕はがんのことをあまり知りませんでした。大先生が来てくれなかったら、がんのことをあまり知ることができずに生きてことになります。だから来てくれて本当にありがとうございました。

わたしは、がんのこと全然知らなかったけど大先生が来て教えてくれて、がんのことが知れました。また、がんは誰もがなる病気だと知って、自分も体の管理に気をつけようと思いました。

私は、がんを早期発見できれば、治る可能性が高いことに驚きました。なぜなら、最初は一度がんになってしまったら治らなくて、手術で成功した場合にだけ治ると思っていたからです。ほかにもたくさんのことを聞いて、知って、面白かったです。新しい学びになりました。

がんについて、よく知ることができました。特にびっくりしたのは、がんにはいろいろな治療方法があったということです。ほかにもいろいろながんの種類があつて驚きました。

がんのことを知らなかったけど、大先生のおかげで色々なことが知れました。そして健康な体作りをしようと思いました。もっとがんのことを詳しく知れるように自分でも勉強をしたいと思います。

先生の授業のおかげで、自分も「検診に行こう!」「不健康になる生活をしない」と思いました。私は前のアンケートでは「癌のない幸せな世界を作りたい」と書きましたが、本当にそのような世界を作れるかと疑問に思っていたら、先生の授業のおかげで本当にそんな世界を作れそうだと思います。なぜなら検診をすればいいのです。検診をすればより多くの命を救えると思いました。だから自分は検診ができるようになったら、絶対に検診に行くことを決めました。自分も先生のように、たくさんの方の命を救いたいです。

予防接種や規則正しい生活、お酒やジュースを飲みすぎたり、たばこを吸ったりしなければ、がんになるのを予防できると知ったから、家族にも教えてがんになるのを予防しようと思いました。

私は癌になりにくくするためにはどうするかが知れたことが心に残りました。なぜなら、私はがんにはならないだろうと思っていたけれど、2人に1人の確率でなるから、検診ができる歳になったらやろうと思いました。また、お母さん、お父さんにお酒やタバコに気を付けてと話しました。

## 【授業検討会より】

- ・今回の授業は、一授業ではなく、外部講師の力を借りて、学校として足りないところを補うような取り組みを考えた。いのちの教育を通して自分を大切にする子どもに育つよう、子どもが自分自身と向き合う時間にしたいと考えて取り組んだ。(校長)
- ・単発でがんを学ぶというよりは、そこに行き着くための流れを考えることで、意味のある学びにしたかった。そのために、理科の人の誕生・助産師さんの命の授業で「生」について学び、今回「死」につながるがんについて産婦人科で扱う子宮頸がんから入るようにした。子ども達なりにがんについて学んだり、がんにならないための予防について考えたりすることができたと思う。祖父母など多くの児童ががんに関わった親族がいる可能性があるが、両親・兄弟などより身近な家族ががん患者の場合、個別に対応する必要性を感じた。(授業者)
- ・HPVワクチンの啓蒙を中心に考えていたが、今回は一般的ながんの知識もということだったので、子宮頸がんから入り、がん全体のことを話した。事前アンケートをもとに授業作りをすることができた。ただし、情報量が多かったかもしれない。事前学習から今回の授業への流れがよかった。(外部講師)
- ・医学的な用語が多くなってしまったと思う。放射線の危険性の質問の時に、子どもの意図を十分にくみ取れていたかという点、そうではなかったかもしれない。医療の治療にも使われることについて、伝えられればよかった。(外部講師)
- ・教育課程の一つとして学習できるようにしていきたい。持続可能な学習をさせていくためにも、養護教諭が外部講師の代わりとして入って学習できるようにすると計画が立てやすい。今回のスライドを県で共有できるようにしていけないかと思う。(養護教諭)
  - スライドを共有することは可能だが、人のスライドで説明するのは難しいのではないかな。動画などにして、それを共有できるようにしたいと考えている。情報が一人歩きするよりは、県で同じ物を使って、それを定期的に改訂するようにしていきたい。(外部講師)
  - 教育課程だけでなく、学校保健教育の一環としてもよい。(保健体育課)
- ・外部講師と担任の切り替えのタイミングがよかった。スライドにはイラストなどを使っていくと、治療法について子どもによりわかりやすくなる。事前アンケートを見ると、がんになってどんなことが起きるのかなど、子どもたちに基礎的な知識があるようだったので、最後に緩和ケアに行く流れはよかったが、5年生には難しかったかも知れない。(委員)
- ・医療用語をかみ砕くことの難しさを感じた。QOL や治療の自己決定の話をしてもらってよかった。QOLの「L」は生活だけでなく、命や人生という意味もある。意味のある治療や生活も患者には大切である。一人一人違う価値観があることも知らせることができたと思う。(委員)
- ・外部講師の雰囲気よかった。ねらいの生活課題に気付き、自分にあった行動の仕方を考えるまで行けたかどうか。もう少し落とし込めるとよかった。(指導主事)
- ・身近にがん患者がいた場合の配慮の大切さや、個々の対応の必要性を感じた。メディアに振り回されず、医療の正しい情報を選べる力も必要になってくる。(指導主事)
- ・がんそのものの理解と、がん患者に寄り添うことががん教育の目的である。医療、看護師、サバイバー、作業療法士などいろいろな講師がいるので、教えたいことから講師との連携を考えていきたい。(保健体育課)

「がん教育推進校授業アンケート」アンケート結果（富士吉田市立下吉田第二小学校）

対象者 がん教育総合支援事業連絡委員会委員 1 名、一般参加者 10 名

	達成できた←			→達成できなかった	
	5	4	3	2	1
本時の目標は達成できたか	7	3	0	1	0
外部講師の活用は効果的だったか	7	2	3	0	0
学校におけるがん教育を進めるうえで、 本日の授業はどうだったか	6	5	0	0	0

○本時の目標は達成できたか（理由）

- ・がんの原因の話を聞き、自らのがんにならないための予防を考え出し、それを班で共有し、分類ごとにまとめ発表につなげ大変良かったと思う。ICT も上手に活用した方法でもあったと思う。また自分の目標だけでなく、他の児童の話を聞く中で、自分が気付いていなかった事を確認できた点、そして最後に先生がホワイトボードに全体のまとめをする中で、一人一人の児童が自分の生活の中で、「食事・生活環境・予防」と整理できた点も大変良かったと思う。（委員）
- ・授業内の発言や意見を深めるにあたり ICT を活用し、がん予防のため自分の生活を振り返り、自分に合った行動の仕方を考えることができていた様子がうかがえた。（養護教諭）
- ・がんを身近に考え、予防するため、なりにくい体をつくるために大切なことを考えることができていた。（養護教諭）
- ・がんについて外部講師や担任の話を聞いたり、児童同士で意見交換し合ったりすることで、がんの正しい知識が得られたと思う。（養護教諭）
- ・自分の生活課題に気づいていたかまでは見とれなかったけど、今後の生活で気をつけたいことは児童たちが見つけられていたと思う。（養護教諭）
- ・小学生が学ぶには、内容が発展的で、幅も広がった。もう少し、「ワクチン」などに絞って話を聞ければ良かったと思う。（養護教諭）

○外部講師の活用は効果的だったか（理由）

- ・がんというセンシティブな内容も外部講師の話により、児童が明確に捉えられていた様子も伺えた。（養護教諭）
- ・詳しいがんについての説明や、児童からの質問に答える様子から効果的であった。（養護教諭）
- ・児童の表情や発言から、外部講師を活用したことでよりがんに対する関心が深まったと思う。宮下先生の児童に対する柔らかい話し方や接し方も、こども達の緊張をほぐしながら意見を活発化させていた。強いて言えば「インフォームドコンセント」「生活の質」「緩和ケア」「プレコンセプション」「ヘルスリテラシー」などは、年齢に応じた対応でもよかったのかもと思った。もしくは、児童が身近に感じるテーマやできる事を1つか2つに絞り、より詳しく説明でもいいのではと思った。全体的には、児童にわかりやすい言葉を使い、児童の反応を見ながら難しそうなことはその都度説明を加えていたため、本当に良い授業だったと思う。（委員）

- ・外部講師だと説得力がある。ただ、後半はプレコンセプションケアなど難しい単語が多く、もう少し分かりやすくしてもよかったと思う。(養護教諭)
- ・効果的だったと思うが、内容が盛りだくさんだったように思う。本時で子どもたちにどんな意識を高めることをねらいにするかを考えながらもっとスマートにしてもよいのでは。(養護教諭)
- ・専門的な分野からのお話は、深くまで学ぶことが出来て良いと思った。しかし、学年や特性、実態に合わせた講師の選定が必要であると感じた。(養護教諭)

#### ○学校におけるがん教育を進めるうえで、本日の授業はどうだったか(理由)

- ・事前学習として、助産師の立場から、いのちの授業をさせていただいた。その内容が発展し、健康教育や、がん予防につながっていく授業を体験できた。これからも、学校側と連携しながら、いのちの授業を行っていききたい。(助産師)
- ・外部講師を招いての授業では外部講師をどのように役割分担しながら授業を進めたらいいかが具体的にイメージができた。(養護教諭)
- ・外部講師活用をすることにより、正しく具体的な知識を子供たちに伝えることができると感じられた。(養護教諭)
- ・子どもたちが、がんという病名についてすんなり受け入れている様子を見て、必要な内容としてすすめていかなければいけないと感じた。(養護教諭)

#### ○学校におけるがん教育をすすめる上での課題について

- ・検討会の時に中込先生が、「他人のスライドを使用して話す、あるいは聞いた話を他の人が話すのは、元々の方の想いと異なってしまふことが多々ある」と話されていたが、医療者、患者の立場も共に同様のことが言えると思った。そのためにも多くの外部講師を活用できる仕組みづくりがあればと思う。外部講師養成セミナーやロールプレイを繰り返して児童生徒の前に立てるような、体制作りも必要だと感じる。(委員)
- ・ほとんどのがんは50代くらいから増え始めるため児童生徒の祖父母世代が多いと思われるが、一方で最近では、母親が乳がんや子宮頸がんを罹患しているケースが増えている。身近な人ががんになった時、児童生徒が自分を大切にするための対処方法も学べるといいと思う。(委員)
- ・小学校教員、養護教諭だけではなく、専門家を外部講師に招き、様々な立場で児童に伝えていくことが必要だと思う。(助産師)
- ・指導要領との統合性や児童の実態に合わせた学習にすることに課題を感じる。(養護教諭)
- ・子どもが自分事として捉えられるように指導するのが難しい。(養護教諭)
- ・がん罹患者(サバイバーの方を含め)が家族にいる児童や全家庭への対応、配慮が難しいと思われる。(養護教諭)

#### ○その他(気づいたこと・感想)

- ・担任の日頃からの児童との信頼関係の上にこの授業ができたのではと、本当に素晴らしいと思った。命の大切さをテーマに、助産師の方の特別授業から、がんという病気に対する理解への流れがわかりやすかったと思う。また、身近にがんがある児童に対しての配慮もあり、良かったと思う。(委員)

- ・子供のうちからがんについて考える機会を持つことは、健康意識の向上に繋がる。(助産師)
- ・外部講師を活用したがん教育をすすめる必要性を感じた。(養護教諭)
- ・命の誕生からはじまり、子宮がんに着目させ、がんの発生要因や他の種類等を専門的立場の医師が児童に解説し、担任によりがんの発生要因や予防方法について児童に考えさせる展開や、プレコンセプションケアの取り組みでもあることなど、とても勉強になった。(養護教諭)
- ・外部講師の説明内容が小学生にしては少し難しく感じたが、担任の先生が上手くまとめたため、わかりやすい授業だったと思う。(養護教諭)
- ・授業で用いられていたパワーポイントを各校共通の教材にしていだければ、がん教育も実施しやすくなると思った。外部講師活用のメリットもあるが、どこの学校でも一律に同じ教育ができるように教育課程に組み込むなどしていただけるとありがたい(養護教諭)

## 【富士吉田市立下吉田第二小学校におけるがん教育について】

### ○教科横断的な学習、いのちの教育の一環として

がん教育を行うにあたり、理科、学級活動、道徳と3つの教科を横断して「いのち」について学んだ。5年生で人の生や死について様々な側面から考え、その上で6年生の保健「病気の予防」でがん以外の病気や、より具体的な予防法を知ることさらに学習が深まっていくと考えられる。段階的に「いのち」について考える機会を持たせることで、児童が自分の命を大切に思い、健康に過ごそうとする気持ちを育むことができる児童の育成を目指したい。

### ○外部講師との連携について

今回、助産師、産婦人科医師の方々に外部講師として来ていただいた。外部講師を活用することにより、児童も興味を持って学習することができ、より正しい知識を得ることができた。今後も様々な外部講師と連携しながら、児童の学びが深められるようにしていきたい。

### ○がん罹患者を家族に持つ児童への配慮について

今回、がん教育を学年全体で行うにあたり、5年生保護者に通知を出した。公開授業をしたクラス以外には、がんで保護者を亡くした児童や、現在治療中の保護者を持つ児童もいた。保護者に連絡し児童と話す中で、保護者を亡くした児童はまだ受け止められないからと授業を受けることを止め、治療中の保護者を持つ児童はただ怖がっていたからちゃんとがんについて知りたいと、配慮事項を保護者と相談した上で授業を受けた。保護者でなくても、祖父母など身近な範囲まで広げれば多くの児童ががん罹患者と関わってくると考えられる。事後指導の道徳で行った「電池が切れるまで」の授業後の感想で、「おばあちゃんはがんだったけど、最後は治療をあまりしなかった。なんで?と書いていたけど、色々な勉強をして、それがおばあちゃんが決めた生き方だったんだと思った。」と書いてきた児童もいた。がんの正しい知識を得ることは、がん罹患者の生き方を考えたり、自分自身の生き方を考えたりするきっかけになる。しかしそれを受け止める時期は個々の児童の背景にも十分配慮し、寄り添っていく必要がある。